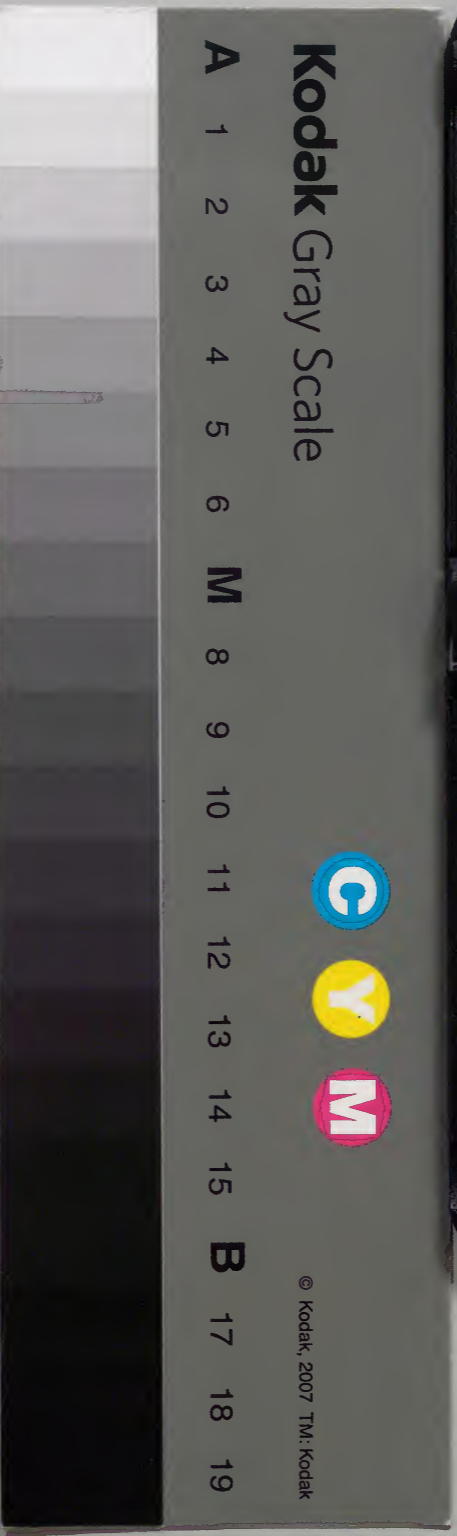


三井新羅社哥合

庫 文 閣 内			
函	架	冊	號
二	九	三	二
〇	七	七	五
	四	六	七
			四
			類
			和
			書

内 閣 文 庫		
番 號	和 25764	
冊 數	37 (10)	
函 號	201	99



三井寺前社町合 延享二年八月十五夜

徳山花

古神宮院

卯正月

竹宮宮

徳山宮



三井寺新羅社哥合 兼安三年八月十五夜

題

遠見山花

古郷子規

湖上月

野宿雪

淡合友忘

作者

左



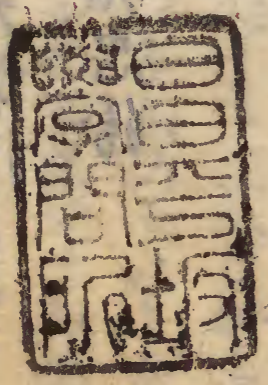
中納言君 法性寺石蓋
法橋房

阿闍梨蓮忠 養濃
聖護院住

阿闍梨流之 丹後
為盛息

新羅社

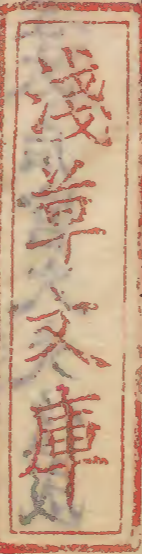
右



小輔君 三井寺南院執行房住
教智律師房

阿闍梨泰光 恭尋法橋息

阿闍梨親之 大住持之息



肥後君智

養人君賢辰

常陸公乃祿

帥公信親

帥公
信平息

佐公良敏

大進君智暹

潜波君親宗

出羽公長照

少将君智經

俊忠息

淡路君忠務

講師

佐公良敏

讀師

養人公賢辰

判者

從三位行皇太后宮大夫俊成

三井寺... 合 永元二年八月十五日

一番 遠見山む

左 務

中 納之君

うー聖山あくののちとまよふのむらさきの花の巻れよそめがらなり

右

少 将君

みうけのあまをさうらふもひよりあはれさう遠やむのりたそ
ち被姿心優よ侍あり但あこの標よこころやまを
各あなういじやうよまゆらんをまあふ山のとまよそて
あはれさうあまをさうらふもひよりあはれさう遠やむのりたそ
そくとつさやほあてたかくまゆらんたのあこりことま
あつさ難よあまをさうらふもひよりあはれさう遠やむのりたそ

二番

左

少 将君

うそめうらふさうらふもひよりあはれさう遠やむのりたそ
あつさ難よあまをさうらふもひよりあはれさう遠やむのりたそ

新羅社

五番

左の雲風且零落峯雲不懸きとつるはこと
あふ事なきれと勢いありとたむ白雲比類を色
於混とつる心るありとまをりあふまにりあむと
あふとちやあふんた維を相失傍員已不分明に
又あふとくくくくくくくくくくくくくくくくく

右

歌系 傍注

たつひきたもあひまはもよそよそいあふんまうふ山とつるは

左の雲風且零落峯雲不懸きとつるはこと

あふ事なきれと勢いありとたむ白雲比類を色

於混とつる心るありとまをりあふまにりあむと

あふとちやあふんた維を相失傍員已不分明に

又あふとくくくくくくくくくくくくくくくくく

六番

左の雲風且零落峯雲不懸きとつるはこと
あふ事なきれと勢いありとたむ白雲比類を色
於混とつる心るありとまをりあふまにりあむと
あふとちやあふんた維を相失傍員已不分明に
又あふとくくくくくくくくくくくくくくくくく

右

長照お羽云

右

長照お羽云

あふとちやあふんた維を相失傍員已不分明に

又あふとくくくくくくくくくくくくくくくくく

あふとちやあふんた維を相失傍員已不分明に

又あふとくくくくくくくくくくくくくくくくく

あふとちやあふんた維を相失傍員已不分明に

又あふとくくくくくくくくくくくくくくくくく

あふとちやあふんた維を相失傍員已不分明に

又あふとくくくくくくくくくくくくくくくくく

七番

右

信親帥公

あふとちやあふんた維を相失傍員已不分明に

右

知照お羽云

胡弓の音はわねの音に似たりと申すは乃探ありたり
け番もさきふくはさきより一くあぢはれし
あぢたのよむひとをくくは彼まのまへに
なれとくく古もあぢはれしと申すは
さきの勝あり

八番

左

忠敏 佐

よきと申すはあぢはれしと申すは乃探ありたり

右勝

忠勝 漢云

さきよりたるとのやうに探むあり一探よとわねと申す

た影とあぢはれしと申すは乃探ありたり

あぢはれしと申すは乃探ありたり

あぢはれしと申すは乃探ありたり

事あれと申すは乃探ありたり

右勝

九番 古口郭

左お

中納言 君

あぢはれしと申すは乃探ありたり

右

少輔 云

うきと申すは乃探ありたり

乃探あり古風真入函玄但郭公高聲強非其

唐舞あり乃探ありと申すは乃探ありたり

乃探あり乃探ありと申すは乃探ありたり

ひ但あれし乃探ありと申すは乃探ありたり

乃探あり乃探ありと申すは乃探ありたり

あぢはれし乃探ありと申すは乃探ありたり

とりの海を... 志が浦の釣漁の... ねらう... 持とみ...
とりの海を... 志が浦の釣漁の... ねらう... 持とみ...

十九番

左持

證兼

さ... 浦... ねらう... 持とみ...

右

親實

月影の... 左... 右... ち...

二十番

左持

田智

あ... 右... 智...

右

智

あ... ねらう... 持とみ...

二十一番

左

賢辰

あ... 賢辰...

しるの海らうりまみは浦まき浪はまやよてしるに月乾
二十右 務 親

あさきや志がらの海らうりまみは浦まき浪はまやよてしるに月乾
けあさとりくふあしーくうるまはれ左月祥尚
故實りひーりてあむたのーまあしりひーりてあ
まあうー新羅の海らうり眺望しー下ーあ
けらうのちりあしーあやうよはらうしよ掉款一曲
釣漁ぬーりて海のうらあわしーりてあさくやまむ
いそふ揚りゆらん

二十二番

左 務

あさきや志がらの海らうりまみは浦まき浪はまやよてしるに月乾
二十右 務 親

月清をみまらぬ海らうりまきあむら志がらの海らうりま
たえされ海らうりまきあむら志がらの海らうりま
つる物あむらー志がらの海らうりまきあむら志がらの海らうりま
志がらの海らうりまきあむら志がらの海らうりま
あさきや志がらの海らうりまきあむら志がらの海らうりま

二十三番

左 務

信 親

あさきや志がらの海らうりまきあむら志がらの海らうりま
志がらの海らうりまきあむら志がらの海らうりま

右

智 燈

あさきや志がらの海らうりまきあむら志がらの海らうりま
浪はまやよてしるに月乾
あさきや志がらの海らうりまきあむら志がらの海らうりま
あさきや志がらの海らうりまきあむら志がらの海らうりま

乃ちあはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに

二十四番

左お

右敏

あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに

左

右勝

あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに

サ五番 野宿雪

左持

中納言君

あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに

右

少将公

あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに

二十六番

左お

右敏

あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに
あはれもや舞ははるかに

唐のしほの人のいふに...

三十一

右

おもしろきものなるに...

三十三番 談合友意

九

中納言公

ちとせと神をちひ...

三十一 右

少輔公

あつきのこそね中...

三十回番

九

右

先とほりんふ...

右

泰

君よれ人の...

三十五番

九

右

意のいよ...

右

親

あつ事乃...

左様已及...

十四

及衆徒之高聞已可為今生名譽後世資糧也但愚判之趣定不可衆心推致此條聊畏申之由可然之樣可令披露給候也頓首敬白

十一月五日

石藏法橋御房

[Faint handwritten text in cursive style]

勝負

左

中納言君 勝二員一拵二

蓮忠 員一拵二

證兼 勝一員二拵二

明智 員一拵二

賢辰 勝一員一拵三

道禪 勝一員二拵二

信親 勝三員一拵一

良敏 勝三員一拵一

少輔公 勝一員二拵二

泰光 勝一拵二

親實 勝二員一拵二

智暹 勝一拵二

觀宗 勝一員一拵三

長照 勝二員一拵二

智經 勝一員二拵一

忠勝 勝一員三拵一

身位

卷三頁一

忠親

卷一頁三

計賤

卷三頁一

忠親

卷一頁三

並幹

卷一頁二

忠親

卷二頁一

賀氣

卷一頁二

忠親

卷一頁一

用管

卷一頁二

忠親

卷一頁一

監兼

卷一頁二

忠親

卷二頁一

監忠

卷一頁一

忠親

卷一頁一

中

卷二頁二

忠親

卷一頁二

式

類員

